

北海道新幹線の開業を契機とした交流人口の拡大及び訪日外国人
観光客の増加を図るための地域の取組について

「ここをつなぐ観光地づくりを目指して！」

二戸市

【北海道新幹線開業に伴う取り組み】

《現状と今後の見込み》

- ・北海道南の中学校の修学旅行は、道内と北東北の割合がそれぞれ5割程度あり、新幹線開業後はより北東北への割合の増加が予想される。
- ・これまで、二戸市では教育旅行の受け入れを行っていないが、知的向学心の高い外国人観光客の対応を行うことで、学生の受入れにも対応できるものとする。
- ・生徒数に応じきれる受入れ先、宿泊施設等が限られているので、近隣市町村と連携しながら受入れ体制を構築する必要がある。

《二戸市の取り組み》

- ・漆をはじめとする二戸の風土が育んだ宝を生かし、県北広域振興局で実施している「カシオペア体験交流くらぶ」などのメニューとのタイアップにより、体験や民泊などを推進し「人に逢いにくる観光」を推進することで交流人口を拡大する。
- ・日常の情報の相互交換から、人とのつながり、関わりから訪問のリピート率や二戸の農林水産物・特産品の購入頻度を高める。



さくらんぼ収穫体験

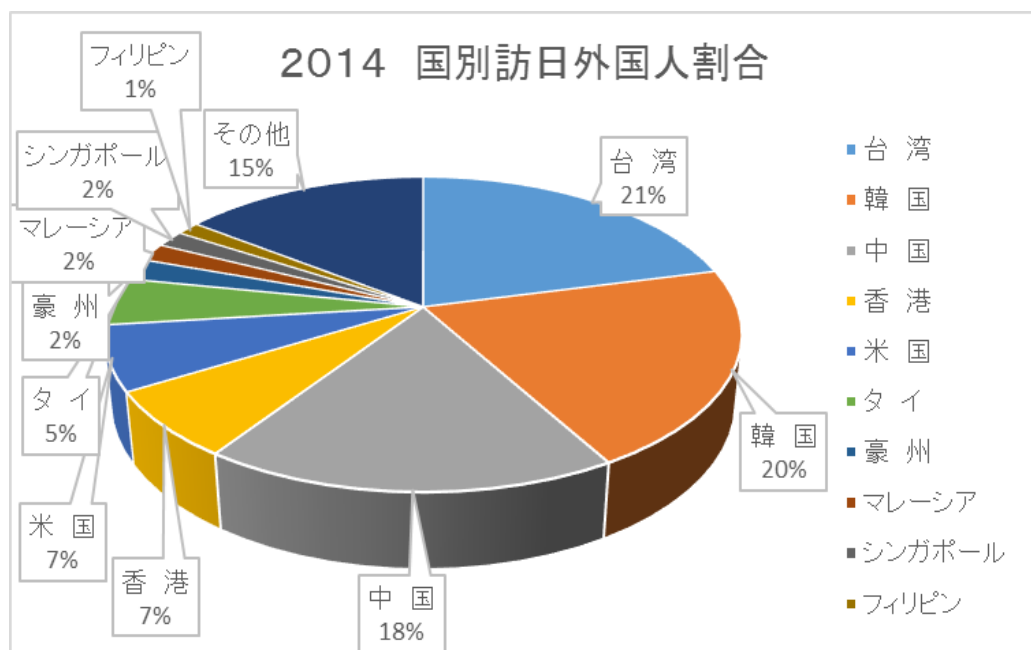
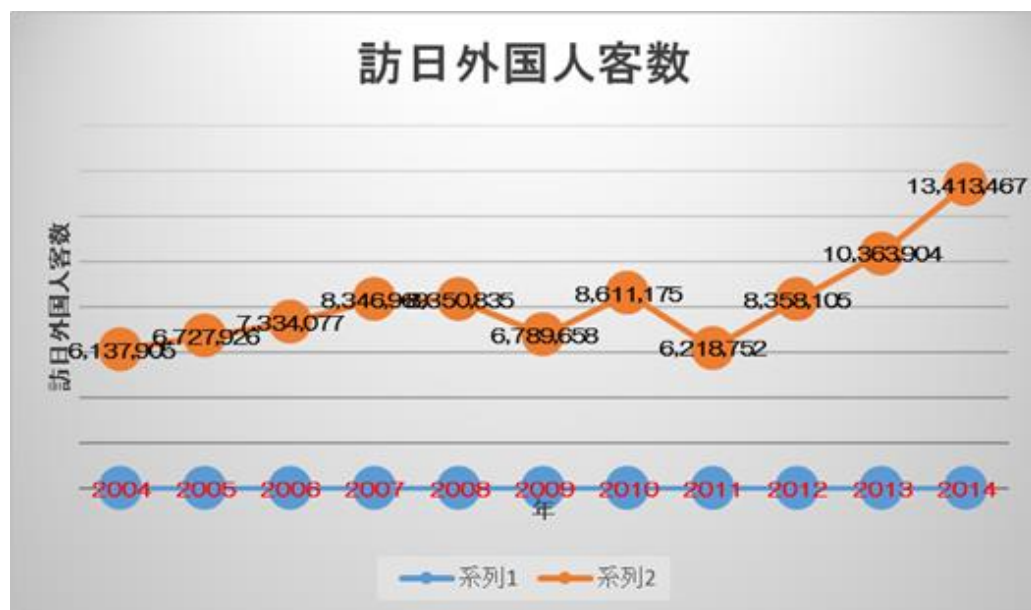


かぶ漬け体験

【訪日外国人観光客の増加の取り組み】

《現状と今後の見込み》

- ・訪日外国人数は、10年前の2.19倍(2014年では約1,341万人)
- ・アジア圏からの観光客が多いが、欧米では、米国、豪州が多い。
- ・日本政府観光局の調査では、外国人観光客が訪日で楽しみにしているものは、「食事」が万国共通で上位(全体の75%)。次いで、アジア圏の観光客が「買い物」をあげるのに対し、米国、タイ、豪州では、「自然、環境」、「歴史、文化」が上位を占める。



《二戸市の取り組み》

- ・二戸市では、これまで外国人観光客の対応は行っていない。
- ・一方、平成 25 年から 3 年間「にのへブランド海外発信事業」を展開。ニューヨークで浄法寺塗を使って地酒を飲むという文化を提案
- ・文化庁が国宝、重要文化財の修繕に国産漆の使用を方針化(平成 27 年 2 月)
- ・本市が、「漆と地酒(W-japan)と伝統食」で中小企業庁のふるさと名物応援宣言(平成 27 年 9 月)

※(株)南部美人が、「東北・日本酒テロワール・プロジェクト」に参加(平成 27 年 8 月)

■今後の展開について■

○「二戸を選んでお越しいただくために！」～旅行地選択の“必然性”～

- ・ターゲットは、知的向学心の高い、欧米人等
- ・誘客方法は、金閣寺や日光東照宮等、浄法寺漆で修繕を行っている国宝、重要文化財を有する観光地からの二次観光への展開を促進する。
- ・観光資源は、漆や地酒、伝統食の歴史、文化や生産方法、作法、美味しい食し方、それらを生産・伝承する人の魅力など一体的に提案する。
- ・帰国後も情報の相互交換から、人とのつながり、関わりからリピート率を高めていく。
- ・旅行形態は、これまでの有名観光地を巡るツアー型から、チケット手配からホテル選びなどを個人で手配する FIT (Foreign Independent Travel) へとシフトしている。
- ・市としても FIT のニーズを把握するとともに、情報発信の強化および受入側の旅館等との連絡調整を行う。



ふるさと名物応援宣言「漆と地酒(W-japan)と伝統食」(平成 27 年 9 月)